

Fukuoka University MEDICAL SCIENCE NEWS

No. 83

編集・発行
福岡大学医学会
福岡大学医学部内

福岡大学医学会ニュース

長さにわたり
皆様にお世話になりました。
福岡大学に期待します。

福岡大学名誉教授 竹下 盛重



1974年に福岡大学医学部3回生として入学し、1980年卒業以来、約10年を除く30年間を福岡大学で働かせていただきました。私は1982年、故菊池昌弘教授主幹の病理学教室に入局しましたが、当時は成人T細胞白血病/リンパ腫(ATLL)が発見されたすぐ後で、ATLLの病態解析のため忙しい日々を送りました。甲斐あり、福岡大学病理学教室はATLLを含めTNK細胞リンパ腫の大きな研究機関となっていました。当時を振り返ると、悪性疾患、特に急性白血病、悪性リンパ腫の治療は不十分なもので抗がん剤は腫瘍細胞傷害とともに、健常細胞、免疫担当細胞を傷害するため感染症で死亡していました。その後、骨髄移植、確立した化学療法が使用され、急性白血病は死なない病気になりました。また、AMLに対する分化誘導剤 all transレチノイン酸(ビタミンA)大量療法、B細胞リンパ腫に対する抗CD20抗体療法、CMLに対するチロシンキナーゼ阻害薬等非常に効果的な薬剤が出来て、患者予後に大きく寄与しました。また、1990年前半に学会で報告されていたリンパ濾胞内にみられるPD1陽性T細胞は、新しい抗体で濾胞内T細胞のマーカーかとタカを括っていた抗体でしたが、PD-L1と共に腫瘍に対し局所免疫抑制に関与していることがわかり、癌免疫チェックポイント阻害薬という新たな治療戦略になりま

した。各種癌においても癌遺伝子、癌抑制遺伝子の変異をみることにより、患者に最も合った治療法がなされています。このような進歩は、病理診断にも大きく影響しました。以前はフローサイトメトリーや免疫組織化学が大きな手だてでしたが、現在は腫瘍組織において遺伝子増幅や染色体転座が検討され、加えてシーケンサーによる特定遺伝子配列異常の確認とオンコパネルを用いた多数の遺伝子異常検査が行われ、治療方針の決定がされています。腫瘍の証拠に基づく診断、その特徴的な遺伝子変異検索に移行してきています。ここ20-30年の医学の進歩は格段で、今では遺伝子診断が常識的な状態になり、さらに知見が加わり、私の手が届かない所になってきました。今からはこのような先進医療が通常医療になっていく時代になりますので、皆様の研鑽がより一層求められてきます。ぜひぜひ、波に乗ってレベル高い生命科学を構築できます様、福岡大学医学部、福岡大学が一丸となって教育、診療、研究を遂行されていてほしいと思います。十分に対応できる若い方々を輩出し、伝承していきましょう。最後になりましたが、長期にわたり各科、各施設、病理関係者にご迷惑をお掛けしました。また、皆様のご厚情をいただき、どうか今までお仕事することができました。感謝と共に皆様のご発展をお祈りいたします。

福岡大学の益々の発展を祈念します

福岡大学名誉教授 田代 忠

今年3月に福岡大学を定年退職いたしました。皆様には大変お世話になりこの場をお借りしてお礼申し上げます。

私は1994年4月に、久留米市の聖マリア病院より福岡大学医学部心臓血管外科に助教授として赴任し、2004年に主任教授となりました。心臓血管外科講座に23年間、総合医学センターに5年間に在職しました。

この間の思い出としては、1999年と2006年に福岡大学病院手術室にて行ったオフポンプ冠動脈バイパスのライブデモンストレーションでした。従来の冠動脈バイパスは、人工心肺を用いて心臓を停止させて行うものでした。しかし、人工心肺の使用や心停止は、非生理的で侵襲を伴うため術後の心不全や合併症の発生が避けられませんでした。

福岡大学病院手術室にて、実際のオフポンプ冠動脈手術をライブ中継し、ホテル会場に集まった全国の心臓血管外科医100名余りと、術者である私が手術を行いながら装着したイヤホンとマイクで直接会場の聴衆と質疑応答を行いオフポンプバイパスの方法を解説しました。冠動脈バイパスは、動いている1.5mm径の冠動脈にバイパスである内胸動脈を

吻合し、更に術後に開存していなければならないという繊細で高難度の手術です。この2回のライブ手術により、冠動脈バイパスに於いて福岡大学の評価が高まり大勢の患者さんをご紹介いただくことになりました。

心臓血管外科は、多くの部門の協力で成り立っています。診断を行う循環器内科、術中管理や麻酔を行う麻酔科、手術部の看護師さん、術後管理を行う集中治療部、更にリハビリテーション部、病棟、外来など多岐にわたります。多くの方々にご協力、ご教示いただきました。この場を借りまして深く感謝いたします。

また、私事ですが、退職前に体調を崩し、福岡大学病院の先生方にお世話になりました。最先端の温かい医療を施していただき体調も回復することが出来ました。本当に福岡大学に勤めていて良かったと感謝しました。

福岡大学医学部、そして福岡大学の益々のご発展を、心から願っています。



福岡大学医学会第84回例会および第44回総会（報告）

■日時/令和3年9月22日（水）17:30～19:15 ■場所/医学部講義棟3F RI大講堂

1. 第84回福岡大学医学会例会 【進行】集会幹事 平井 郁仁

- 1) 開会の辞 集会幹事 平井 郁仁
- 2) 会長挨拶 医学部長 小玉 正太
- 3) 第23回福岡大学医学会賞受賞論文講演（講演15分、質疑応答含む）
 - ① 講演者…三嶋 崇靖(脳神経内科) 座長…坪井 義夫
「Meta-iodobenzylguanidine myocardial scintigraphy in Perry disease」
 - ② 講演者…向坂 秀人(消化器内科) 座長…平井 郁仁
「Topical Therapy with Antisense Tumor Necrosis Factor Alpha Using Novel β -Glucan-Based Drug Delivery System Ameliorates Intestinal Inflammation」
 - ③ 講演者…星野 耕大(救命救急センター) 座長…石倉 宏恭
「Enhanced effect of recombinant human soluble thrombomodulin by ultrasound irradiation in acute liver failure」
- 4) 第23回福岡大学医学会賞金賞論文投票
- 5) 新任教授講演（講演25分、質疑5分）
 - ① 講演者…秋吉 浩三郎(麻酔科学) 座長…小玉 正太
「麻酔科学の明日」

2. 第44回福岡大学医学会総会

- 1) 議事 【進行】庶務幹事 鍋島 茂樹
 - ① 報告事項 ② 令和2年度会計報告および令和3年度予算案 ③ その他
- 2) 第23回福岡大学医学会賞授賞式 【進行】集会幹事 平井 郁仁
 - ① 開票結果発表 ② 授賞式
- 3) 閉会の辞 集会幹事 平井 郁仁



講演された先生方と(左から、秋吉先生、坪井先生、三嶋先生、小玉会長、向坂先生、平井先生、星野先生)

新風

new phase

令和3年4月1日付けで
本学へ赴任、昇格された方に
自己紹介をしていただきました。



臨床検査医学
教授

小川 正浩

令和3年4月1日付けで福岡大学医学部臨床検査医学講座の主任教授ならびに福岡大学病院臨床検査部の診療部長を拝命いたしました。私は平成3年に福岡大学内科第二に入学し、循環器、特に不整脈の診療、教育や研究に従事してまいりました。その間、当院や関連病院、国立循環器病センター、シーダス・サイナイ医療センターやインディアナ大学など内外の施設で研鑽させていただき、現在に至っております。これまで長きにわたり、心臓・血管内科学講座でのみ仕事を続けてまいりましたが、この度、縁あって臨床検査医学講座に異動し、主宰させて頂くことになりました。臨床検査は、生体生理(機能)検査と検体検査に大別され、病院では中央検査部門としてほとんど全ての診療科と関わり、それぞれの診療科の診断や治療に貢献する重要な役割があります。今後は、専門としている循環器など生理検査部門の発展をはかるとともに、検体検査部門においては、新たなものに柔軟に、正確かつ迅速に対応していく所存です。

総じて、今まで研鑽してまいりました循環器・不整脈学の診療・教育・研究の継続はもとより、臨床検査部の管理運営主体として新たな「RINKEN」を構築すべく精進していきたいと考えています。今後とも宜しくお願い申し上げます。



呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学
教授

佐藤 寿彦

令和元年に福岡大学の皆様に呼吸器乳腺内分泌小児外科学准教授として迎えていただきましたのち、この度令和3年4月1日付けで同講座の主任教授ならびに診療部長を拝命いたしました佐藤寿彦でございます。小生は平成9年に京都大学胸部疾患研究所附属病院外科に入学後一貫して胸部外科の臨床・研究・教育に従事してまいりました。福岡大学は国内有数の呼吸器外科グループでありまして、優れた若手外科医をそだてその伝統を引き継いでゆくのが私の使命と考えております。そのためには手術件数特に肺癌手術件数をさらに増やし、患者サービスの向上に努めブランドを確立してゆくつもりでございます。どうぞご指導・ご鞭撻のほどおねがい申し上げます。



小児科学
教授

永光 信一郎

この度、令和3年4月1日付けで、福岡大学医学部小児科学講座の主任教授を拝命いたしました、永光信一郎と申します。平成2年に福岡大学医学部を卒業し、31年間久留米大学小児科で小児医学の臨床・研究・教育に携わってきました。

今般の小児医療は少子化および予防接種普及による小児感染性疾患の激減により、小児医療提供体制の変革が求められていた中、世界的パンデミックとなったCOVID-19の影響にて小児医療の在り方はさらなるパラダイムシフトを求められています。子どもをbiopsychosocialな存在として捉え、学童・思春期の子ども達へのヘルスプロモーション支援が小児科医に求められています。2018年に成立した成育基本法は妊娠期から成人期まで成育過程にある者に切れ目なく成育医療を提供していくことを理念としています。私事ですが、令和3年4月より厚生労働省科学研究費補助金成育疾患等克服事業研究班の班長も仰せつかりました。成育基本法の理念に基づいた乳幼児健診の充実と、新たな学童・思春期健診の開発を実施してまいります。多くの関係者の方々のお力添えを頂きながら、この福岡から小児医療のパラダイムシフトを行っていただければ幸いです。



筑紫病院 呼吸器・乳腺外科
教授

山下 眞一

令和3年4月1日付で福岡大学筑紫病院呼吸器・乳腺外科教授を拝命致しました。

専門は呼吸器外科(特に胸腔鏡手術)および乳腺外科です。昭和61年3月熊本大学医学部を卒業後、同外科学第二講座に入学し一般外科を研修後、昭和63年7月より国立療養所松戸病院(現国立がん研究センター東病院)で呼吸器外科の修練を積みしました。平成6年3月学位取得後、平成6年4月より2年半ジュネーブ大学医学部免疫病理学教室留学致しました。平成9年4月より、国立病院機構熊本医療センター、平成18年8月より大分大学第二外科で准教授として勤務後、平成25年福岡大学呼吸器・乳腺内分泌・小児外科に異動致しました。令和元年より筑紫病院外科(准教授)、呼吸器・乳腺センター診療部長として診療を行ってきました。この度診療科として呼吸器・乳腺外科が独立し、さらなる診療の発展が期待されていることとその使命の大きさに身の引き締まる思いです。現在3名体制ですが、人員の充実を図り地域医療に貢献すること、また大学病院の使命である診療、教育、研究に邁進したいと存じます。これからも引き続き皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

祝 第23回福岡大学医学会賞

50音順



三嶋 崇靖
(脳神経内科)

Meta-iodobenzylguanidine myocardial scintigraphy in Perry disease
Parkinsonism Relat Disord 2021; 83: 49-53 (Accepted on 27 December, 2020)



向坂 秀人
(消化器内科)

Topical Therapy with Antisense Tumor Necrosis Factor Alpha Using Novel β -Glucan-Based Drug Delivery System Ameliorates Intestinal Inflammation
Int J Mol Sci 2020; 21(2): 683. doi: 10.3390/ijms21020683



星野 耕大
(救命救急センター)

Enhanced effect of recombinant human soluble thrombomodulin by ultrasound irradiation in acute liver failure
Sci Rep 2020; 10(1):1742. doi: 10.1038/s41598-020-58624-0

看護学科
教授

小柳 康子

令和3年4月1日付けで、福岡大学医学部看護学科教授を拝命致しました。小柳康子と申します。

私は佐賀県出身で、熊本大学養護教諭特別科修了後20年間の現場経験を経て、平成21年に福岡大学にご縁を頂きました。これまで、皆様に支えて頂きながら、発達看護分野、学校保健の教育・研究に従事して参りました。殊に大学院医学研究科看護学専攻(修士課程)養護教諭専修免許課程認定におきましては、たくさんの先生方のお力添え、ご支援を賜りました。心より感謝申し上げます。

今後は、看護学を基盤にした健康課題への対応力の向上を目指し、人材育成教育に一層努力したいと考えております。浅学的身でございますが、福岡大学に貢献できるよう精進する所存でございます。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

看護学科
教授

佐久間 良子

令和3年4月1日付で福岡大学医学部看護学科教授を拝命いたしました。佐久間良子と申します。

私は、福岡大学附属看護専門学校卒業後、九州大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻にて助産師の資格を取得し、福岡大学病院産科病棟へ就職いたしました。当時は正常分娩も多く、夜間の分娩で病棟ストックの分娩セットがなくなることもありました。あらゆる健康段階の妊娠婦の看護実践に携わり、諸先生方のご指導の下、11年間貴重な臨床経験を重ねることができました。その後、母校の看護専門学校の専任教員として閉校まで勤めた後、平成21年より現在の看護学科へ参りました。看護学科では発達看護分野にて母性看護学を担当しております。

研究面では、中村学園大学大学院で栄養科学の学位を取得後、女性の生涯の健康と食との関係の追究を、研究テーマとして取り組んでおります。また、福岡大学研究ブランディング事業においては、臨床と連携しながら出生前・妊娠・出産・子育て期の対象への健康支援活動にも取り組んでおります。

学部生の教育においては、看護実践能力の向上を目指した教育に注力して参りました。今後も医療をめぐる社会のニーズの変化に伴う看護師の役割を思索し、必要な教育内容の充実を図り、一層の自己研鑽に努めて参りたいと思います。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

細胞生物学
准教授

石倉 周平

白澤専二教授のご推挙により、令和3年4月1日付で福岡大学医学部細胞生物学の准教授を拝命いたしました。

私は、1997年に日本大学薬学部を卒業後、岐阜薬科大学大学院修士課程、岐阜薬科大学 助手、カナダトロント小児病院 博士研究員、アメリカNIH 博士研究員、徳島大学疾患酵素学研究所 助教を経て、2013年より当講座に勤務しております。これまでに私は、糖・ステロイド代謝酵素の構造と機能に関する研究、グルコーストランスポーターの細胞内輸送に関する研究、小胞体におけるタンパク質の品質管

理に関する研究、インスリン受容体の不活化に関する研究を行ってきました。現在は、アポトーシスおよび細胞周期の制御に関与し、癌の発症・進展に関連する転写制御因子に関する研究に従事しています。これらの基礎研究を通して、疾患の病態・病因の解明、治療法の開発に繋げていければと思います。

これからは、白澤教授をはじめ多くの先生方のご指導の下、これまでの経験を生かして、福岡大学医学部の発展に貢献できるよう尽力していきたいと思います。何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

消化器外科学
准教授

塩飽 洋生

この度、長谷川傑教授のご推挙により、消化器外科学の准教授を拝命致しました塩飽洋生(しわく・ひろなり)と申します。2003年に福岡大学医学部を卒業後、福岡大学医学部第一外科に入局。その後、池田靖洋教授、山下裕一教授、長谷川傑教授をはじめ、諸先生方に、外科医として、また内視鏡医として温かく育て頂きました。学生の頃から内視鏡による低侵襲治療に大変興味があったため、2008年から2年間、内視鏡診断・治療の国際的な施設である昭和大学横浜市北部病院・消化器センターに国内留学をさせて頂きました。当初は、大腸の内視鏡診断・治療を学んで福岡に帰る予定でしたが、幸運にも同じ部署で行われていた食道アカラニアに対する経口内視鏡的筋層切開術(POEM)の開発過程を間近で見ることができました。2010年に福岡大学に戻ってきた後、麻酔科の全面的なご支援のもと、当時は行っている施設が少なかった全身麻酔下での内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)に着手。その実績を元に2011年9月には、福岡県で第一例目となるPOEMを行うことができました。その後はPOEMガイドライン、国内初のPOEM多施設共同研究、先進医療から保険医療への申請作業などを通して、POEMの普及・標準化に、微力ではございますが、携わって参りました。現在はそれらの経験をもとに、内視鏡的全層切除・縫合法の研究や、人工知能を用いた内視鏡診断法の開発に取り組んでおります。今後は、平井郁仁教授はじめ、消化器内科の諸先生方のご指導も頂きながら、科を越えて、福岡大学の内視鏡分野がより一層発展するよう、自身の研鑽や若手の育成に努めて参ります。皆様からの変わらぬご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

薬理学
准教授

田頭 秀章

令和3年4月より岩本隆宏教授のご推挙により、福岡大学医学部薬理学の准教授を拝命いたしました田頭秀章と申します。私は、平成26年に東北大学大学院を卒業し、学位取得後、平成26年4月より、現所属の助教として採用していただきました。福岡大学医学部赴任後、イオン輸送体の生理学的・病態学的役割の解明を目指した基礎医学研究を精力的に行っております。これまでの研究成果から、イオン輸送体はさまざまな循環器系疾患(肺高血圧症や不整脈・心不全)に関わっていることが示唆されており、今後の興味深い創薬標的であると考えられます。また、教育面では、M2の薬理学IおよびM3の薬理学IIの講義・実習の副責任者を担当しております。副担任ももたせていただき、学生とのコミュニケーションをとる機会が増え、学生の何が、なぜわからないかを真剣に学生と向き合い、共に考える機会をいただけたことを活かし、学生個人のレベルに合わせた教育を根気強く行っております。一人でも多くの学生を、今後の医療を支えていける医師として世に送り出せたらと思います。

これからも福岡大学医学部の発展に微力ながら尽くしていく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



感染制御部
准教授

戸川 温

2021年4月1日付で福岡大学病院感染制御部准教授を拝命しました。私は1993年に九州大学医学部を卒業し第一内科(仁保喜之教授)に入局しました。当時は研修医1年目から一人で骨穿をするような時代でしたが、1日18時間の研修をしたことは現在のささやかな臨床力の基礎となりました。研修終了後科学技術庁の研究プロジェクトに大学院生として参画し、ノックアウトマウス作成のちにオンタリオ癌センター(トロント・カナダ)のMak教授のもとに留学しました。留学後京都大学(のち理化学研究所)の西川教授のもとで免疫組織の発生学の研究に従事しました。10年以上研究に打ち込みましたが、次なる方向性を見いだせず、臨床に戻ることにしました。医局の紹介にて民間病院でリハビリをしましたが、診療を行う中で感染症に興味を持ち、自分なりに勉強を始めました。本格的な勉強は年齢の点で諦めかけましたが、医局からの紹介で2012年腫瘍・血液・感染症内科に入局する運びとなりました。未経験の領域でしたが、感染症学の魅力にはまり、今に至っています。高松泰教授のご高配により、海外渡航外来の開業など自由にさせていただいており、感謝申し上げます。一昨年からCovid-19の大流行がおこり、まだ終息の兆しは見えませんが、今後も院内感染対策、感染症診療に微力ながら貢献できればと思います。皆様のお役に立てるよう精進する所存ですので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



脳神経外科
准教授

野中 将

この度、井上亨教授のご推挙により令和3年4月1日付けで福岡大学病院脳神経外科准教授を拝命致しました。私は平成5年に福岡大学を卒業し、同年に福岡大学筑紫病院脳神経外科に入局しました。当時の筑紫病院は研修医の2年間は脳外科のみならず外科、整形外科、麻酔科も研修するシステムであり、3年目になった頃は虫垂炎や鼠径ヘルニア手術の方が神経手術より安心して執刀することができました。その後は大学院に進み学位を取得、九州医療センター、福岡赤十字病院、福岡東医療センターなどの関連病院で脳神経外科の基本的診療を学び、宮古島で離島医療や福岡女学院看護大学臨床准教授として看護教育も経験しました。その傍らK-1、PRIDE、佐々木健介プロレスなど福岡で開催される格闘技のリングドクターも務めながら、近年は主に悪性脳腫瘍と内視鏡手術を担当しています。脳神経外科でも他科と同様、低侵襲治療や鏡視下手術にシフトしています。神経内視鏡は従来の下垂体腫瘍や水頭症治療のみならず、脳内出血、頭蓋底腫瘍、悪性腫瘍、外傷など様々な手術が可能となっています。微力ではございますが、低侵襲手術の更なる発展、治療応用を目指しておりますので引き続きご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



筑紫病院 外科
准教授

東 大二郎

令和3年4月1日付で、渡部雅人教授のご推挙により、福岡大学筑紫病院外科准教授を拝命しました。平成4年福岡大学医学卒で、学生時代は準硬式野球部でした。クラブの先輩から勧誘されたこ

とが縁となり、当科に入局した次第です。白十字病院に1年、田川の松本病院に6カ月お世話になり、その期間以外の約25年あまりは、筑紫病院一筋です。私の専門は炎症性腸疾患の外科治療で、この筑紫病院こそは、消化器内科、病理部が、この分野において日本トップレベルで、その外科治療を修練するには最適の環境でした。この炎症性腸疾患とは、臨床の場では潰瘍性大腸炎とクローン病を指し、難病指定されています。内科治療が主体で、その治療は飛躍的に進歩していますが、原因不明の難病で、外科治療を必要とする症例は後を絶ちません。専門性の高い疾患ですが、患者数は年々増加しており、現在はその外科治療の一般化、標準化を目指しています。残された大学での外科人生、このテーマを掲げ精進したいと考えています。よろしくお願い致します。



筑紫病院 脳卒中センター
准教授

津川 潤

東登志夫教授の御推挙により令和3年4月1日付けで福岡大学筑紫病院脳卒中センター准教授を拝命致しました。私は平成12年に金沢医科大学を卒業し、福岡大学病院臨床研修を経て第5内科(現、脳神経内科学教室)に入局しました。神経疾患を幅広く経験し、神経内科専門医取得後は、神経筋疾患の電気診断に研究テーマを絞り電気生理検査を中心に診療を行って参りました。平成29年4月から1年間、シドニー大学Brain and Mind CentreでALSの神経筋超音波検査や経頭蓋磁気刺激のトレーニングを行う機会を頂きました。平成30年10月、筑紫病院脳神経外科教室に東登志夫教授が就任される際に、脳卒中センターの一員として赴任させて頂き、令和2年4月より同講師を拝命しました。筑紫病院に赴任するまでは、神経疾患を幅広く診療してまいりましたが、当院では脳卒中やてんかんなど神経救急の診療に従事する毎日を過ごしております。今後は、筑紫地区の脳卒中や神経疾患の診療に貢献できるよう全力で努力して参りたいと思います。また、大学の使命である研究や教育にも自分の価値を生かせるよう尽力して参ります。未熟ではありますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



西新病院 循環器
准教授

西川 宏明

令和3年4月より三浦伸一郎教授のご推挙を頂き、福岡大学西新病院准教授および副院長を拝命いたしました。私は、平成7年に福岡大学医学部を卒業し、福岡大学病院内科学第2講座に入局し、荒川規矩男教授(現名誉教授)、朔啓二郎教授(現福岡大学長)、三浦伸一郎教授のご指導の下、心臓カテーテル治療を専門とする循環器疾患の臨床に従事して参りました。その後、福岡大学病院ハートセンター冠疾患治療部門主任、福岡大学病院循環器内科診療准教授を経て、平成30年4月1日から福岡市医師会成人病センターより医療事業を譲り受け開院しました福岡大学西新病院の診療部長(循環器科長)に赴任し、現在の役職に至っております。今後も地域医療と大学病院の高度医療を垣根なく橋渡しできる医療連携を目指して努めたいと思います。

昨年より続くコロナ禍における多くの辛い経験を糧として、他の専門領域の医療スタッフ、多職種の協力を要して知恵を絞り合い、更なる診療レベルの向上と若手医師や医学生、スタッフの育成に力を注ぐ体制に成就していきたいと思っています。今後とも皆様のお力添えを何卒宜しくお願い致します。



解剖学
講師

貴田 浩志

令和3年4月より立花克郎教授の御推挙により、福岡大学医学部解剖学講座講師を拝命いたしました。私は平成18年に久留米大学医学部を卒業し、初期研修を経て同大の呼吸器・神経・膠原病内科に入局いたしました。神経内科を専攻し、幅広い疾患の症例を経験させていただきました。神経内科専門医を取得後、平成25年に大学院に進学し、同大の高次脳疾患研究所にてRett症候群の病態解明研究に取り組みました。また、平成29年から1年間はナノ医療イノベーションセンターに国内留学させていただき、ナノミセル型DDSを用いたmRNAの医薬応用研究に携わる機会を頂きました。平成30年に福岡大学医学部解剖学講座に採用いただき、現在に至っております。

現在は、医学部生への解剖学講義、実習指導の傍ら、超音波・ナノバブル、さらにはペプチドを用いた生体組織への遺伝子送達キャリアの開発研究を行っております。中枢神経を標的として、神経変性疾患の遺伝子治療に応用できる革新的なDDSの開発を目指して、一生懸命研究を続けております。福岡大学の発展のため尽力して参る所存です。ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



心臓血管外科学
講師

桑原 豪

2021年4月1日付けで、和田秀一教授の御推挙により、福岡大学心臓血管外科学教室の講師を拝命いたしました。私は2004年福岡大学を卒業し、新臨床研修医制度初年度であり、1年目を福岡大学筑紫病院、2年目を福岡大学病院で研修させて頂きました。その後、田代 忠教授が主宰されておりました心臓血管外科学教室に入局いたしました。2009年より大学院にて小玉正太教授の指導の下、血管新生およびリンパ管新生の研究をさせて頂きました。2013年から2年間米国イェール大学血管外科(Alan Dardik教授)へ留学し、静脈グラフトを動脈環境においた際の細胞外マトリックスに関する研究を行いました。帰国後は済生会福岡総合病院で手術の研鑽を積み、帰学いたしました。

近年、高齢化に伴い大動脈疾患が急増しております。当教室は全国でも珍しく、より低侵襲なステントグラフト治療から開胸開腹の手術まで独自で完結できる教室です。その特徴を活かして、高齢でさまざまな合併症を抱えた患者さんに適したベストな治療を提供できるように日々心がけております。福岡大学病院の発展と人材育成に微力ながら尽力して参りたいと思います。ご指導賜りますようお願いいたします。

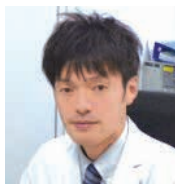


放射線医学
講師

高山 幸久

吉満研吾教授のご推挙により、令和3年4月1日付けで福岡大学医学部放射線医学教室講師を拝命致しました。私は2000年(平成12年)に九州大学医学部を卒業し、同大放射線科に入局致しました。その後、市中病院や九州大学病院にて、主に体幹部のCTやMRI、血管造影による放射線診断学や、IVR(インターベンショナルラジオロジー)による低侵襲治療および画像診断に関する研鑽を積み参りました。大学院では、MRIを用いた定量的評価(数値化して臓器や腫瘍を評価する技術)や、コントラスト(病変と非病変部、臓器間の白黒の程度を明瞭化する技術)に関する撮

像法の研究を行って参りました。福岡大学は試験や七隈祭などで何度か訪れたことがありますが、この度、当大学病院にて勤務する機会を頂き、大変光栄です。放射線科の画像診断およびIVRは、各診療科の先生方の診療をお手伝いすることが主な役割です。まだ、慣れないことも多いのですが、様々な診療科との連携を大事にしつつ、診療や研究、教育に貢献して行きたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



精神医学
講師

堀 輝

令和3年4月1日付けより川崎弘昭教授のご推挙により福岡大学医学部精神医学の講師を拝命しました堀輝と申します。私は平成15年に産業医科大学を卒業し、精神科に入局しました。以降、大学病院、精神科病院で幅広い精神科臨床を学び、さらに専属産業医としての勤務経験もあります。最近では、統合失調症や気分障害患者の診療を中心に、多職種連携を重視しながら診療を展開しております。また統合失調症や気分障害関連の治療ガイドライン作成メンバーとしても精力的に活動しております。研究面では精神疾患患者の就労機能や復職に関して、薬理的、生物学的、リハビリテーションなど多方面からのアプローチによる個別化治療戦略をテーマに行いました。2018年には豪州アデレード大学にも留学する機会をいただきました。教育面としては、学生教育、臨床実習における教育、若手医師教育と幅広く行ってまいりました。特に双方向性を考えた講義や実習を心がけるなどの工夫を行ってまいりました。着任して数か月が経過しますがまだまだ悪戦苦闘の毎日です。1日でも早くお役に立てるように努力いたします。今後ともご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



循環器内科
講師

有村 忠聡

令和3年4月より三浦伸一郎教授の御推挙により福岡大学病院循環器内科講師を拝命いたしました。私は2005年に福岡大学を卒業し、福岡大学病院臨床研修を経て、心臓・血管内科学に入局しました。医師4年目から大学院に入り、そこでは冠動脈疾患患者を対象とした臨床研究を行い学位取得しました。大学院卒業後は福岡大学筑紫病院で研鑽を積みましたが、その中で心不全に興味を持ちました。自身のみでの学習では限界を感じ、2017年度の1年間、大阪大学医学部附属病院で重症心不全・移植専攻医育成プログラム 3期生として働かせていただき、心移植や補助人工心臓が必要となるような重症心不全の診療に携わり勉強させていただきました。その後は、福岡大学病院循環器内科のスタッフとして赴任させていただいております。

心不全は病名ではなく病態です。その原因となる疾患は多く、不十分な検査のまま治療が続行されていることがあります。心筋生検を含む精査を行い、可能な限り心不全の原因を調べることが患者さんにとってより良い予後につながるかと考えております。これからも心不全を中心に臨床・研究に尽力して参りたいと思います。今後ともご指導賜りますようお願いいたします。



循環器内科
講師

末松 保憲

令和3年4月より三浦伸一郎教授の御推挙により、福岡大学病院循環器内科講師を拝命致しました。私は平成19年に宮崎大学医学部

を卒業し、平成24年に当時朔啓二郎教授(現学長)の下、福岡大学医学部心臓・血管内科学へ入局致しました。その後、平成27年に福岡大学大学院医学研究科先端医療科学系専攻博士課程を修了し、米国カリフォルニア大学アーバイン校へ留学致しました。帰国後は三浦伸一郎教授の下、心臓・血管内科学助教、講師を経て、今回福岡大学病院循環器内科講師を拝命致しました。

現在、臨床では主に心臓リハビリテーションに関わり、患者様の治療、臨床研究に取り組んでおります。心臓リハビリテーションは多職種が協働して関わっていくプログラムであり、運動療法、栄養指導、心理カウンセリングといった全人的なケアを行っています。このような分野はエビデンスが不足しています。また、これらは一般健常人でも重要であり、ヘルスケア領域にも活かせるような臨床研究に現在取り組んでいます。また、講座内で行われる基礎研究にも従事しており、特にアテローム性動脈硬化症、HDLコレステロールに関する研究を行っています。未熟ではありますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどを宜しくお願い致します。



救命救急センター
講師

仲村 佳彦

2021年4月より石倉宏恭教授のご推挙で福岡大学病院救命救急センター講師を拝命しました。2004年に福岡大学医学部を卒業後、同年にスタートした新臨床研修医制度による最初の福岡大学病院卒後臨床研修プログラムで研修しました。その後は福岡赤十字病院救急部、前橋赤十字病院高度救命救急センター、日本医科大学病院高度救命救急センターにて救急医の修練を積み、2012年福岡大学病院救命救急センター助教に着任しました。2016年より救急救命九州研修所で救急救命士の育成に従事した後、2018年にボストンのハーバード大学医学部/マサチューセッツ総合病院 Neuroprotection Research Laboratoryへ留学し、Eng Lo教授、早川 和秀助教授の下で脳梗塞の基礎研究に従事しました。これまでの臨床、教育、研究の経験を活かし、救急医学の分野で福岡大学病院のさらなる発展のため、引き続き全力で努力してまいりたいと思います。

昨年よりコロナ禍に世界中が見舞われ、COVID-19患者の死亡者を一人でも減らすべく、重症COVID-19診療に力を注いでおります。救急医学は医療の根幹であり、コロナ禍により救急医の社会的ニーズはさらにクローズアップされると確信しております。一方で、医療は細分化、高度化しており、救急医療には各診療科の先生方の協力なくしては成り立たないものであります。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

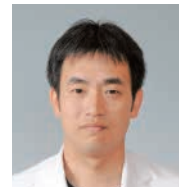


消化器内科
講師

横山 圭二

令和3年4月1日付で、平井郁仁主任教授のご推挙により福岡大学病院消化器内科の講師を拝命いたしました。私は平成11年に福岡大学医学部を卒業し、2年間の研修を経て、第3内科(現消化器内科学講座)に入局しました。福岡赤十字病院、福岡市医師会成人病センター(現福岡大学西新病院)、川浪病院(現福西会病院)等の市中病院で臨床医としての礎を築き、その後福岡大学に戻り、前主任教授の向坂彰太郎先生の下で、肝臓に対するラジオ波焼灼術(RFA)で学位を取得し、現在は肝臓治療、消化管静脈瘤内視鏡治療、肝硬変合併症、門脈圧亢進症に関する研究を行っています。若い頃は臨床一筋に熱中していましたが、大学では、臨床を支える基礎研究やデータの解析、将来を支える学生指導の大切さにも気付かされました。これまで多くの尊敬する上司や

仲間との出会いが自分を一步步成長させてくれたことに感謝し、臨床・研究・教育の3本柱を疎かにせず、若い力を育成していくことが、これからの私の重要な使命の一つと感じています。これからも日々の診療に真摯に取り組んで参ります。未熟ではありますが、今後ともご指導ご鞭撻賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



筑紫病院 消化器内科
講師

大津 健聖

2021年4月1日付で、植木敏晴教授の御推挙により、福岡大学筑紫病院消化器内科講師を拝命いたしました。私は2005年福岡大学を卒業後、福岡大学病院卒後臨床研究センター初期研修医を経て、2007年に福岡大学筑紫病院消化器科に入局しました。私が消化器内科医として修練を始めた頃、H.pyloriに対する除菌療法が適応拡大となり、胃癌撲滅を掲げて盛んにH.pylori除菌療法と発癌に関する議論が行われていました。私も胃癌診療に強く興味を抱き、内視鏡部の八尾建史教授の御指導を受けながら、大学院において胃癌と脂質代謝との関連について研究しました。その後、出張病院にて消化管癌に対する診断と治療を修練し、2018年より筑紫病院に戻りました。現在は、下部消化管の内視鏡治療を中心として、十二指腸腫瘍の内視鏡治療および炎症性腸疾患の診療に中心に従事しています。さらに、外科の協力のもと胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡的胃局所切除術の先進医療の承認取得にも関わることができました。今後も新たな内視鏡治療の導入を進めたいと思います。福岡大学の発展のため少しでも精進できるように努力して参る所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



筑紫病院 呼吸器内科
講師

木下 義晃

令和3年4月より、石井寛教授の御推挙により、福岡大学筑紫病院呼吸器内科講師を拝命致しました。私は2006年に佐賀大学医学部を卒業し、初期臨床研修後、山口大学高度救命救急センター、小倉医療センター呼吸器内科を経て、2015年に福岡大学呼吸器内科に入局しました。2016年より大学院生として福岡大学医学部病理学教室にて、悪性胸膜中皮腫及び間質性肺炎の病理診断に関する研究に携わりました。その後、石井寛教授が就任される際に筑紫病院に異動し現在に至ります。

入局当時より、間質性肺炎を中心としたびまん性肺疾患に興味を持ち、病理診断を含めた総合的な診断を数多くの経験させて頂きました。現在では、診療の傍ら希少な特発性間質性肺炎に関する臨床研究も引き続き行っております。

筑紫病院では、与えられた職務を全うしながら筑紫地区の呼吸器疾患の診療に貢献できるよう、一例一例丁寧な診療を心掛けて行きたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

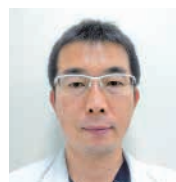


筑紫病院 脳神経外科
講師

坂本 王哉

令和3年4月より東登志夫教授のご推挙により福岡大学筑紫病院脳神経外科の講師を拝命いたしました坂本王哉(さかもときみや)と申します。平成17年に福岡大学を卒業し、臨床研修を経て筑紫病院脳神経外科に入局しました。脳血管障害を中心に脳神経外科診療に従事

し脳神経外科、脳卒中、脳血管内治療の専門医を取得しました。また、平成26年より脊椎・脊髄外科領域の診療にも着手し脊髄外科認定医を取得しました。平成30年10月、東教授が就任された際に、東教授、井上亨教授のご配慮により脊椎・脊髄・末梢神経のさらなる研鑽のために平成31年4月より釧路労災病院に1年間国内留学の機会をいただき井須豊彦先生の指導の元、脊椎脊髄外科専門医も取得しました。令和2年4月に筑紫病院復職してからは「しびれ外来」を開設し脊椎・脊髄・末梢神経の診療に力を入れるとともに、脳血管障害でも主には急性期血行再建の「二刀流」で診療に携わっております。引き続き筑紫地区の医療に貢献できるよう努力して参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



筑紫病院 外科
講師

宮坂 義浩

令和3年4月より渡部雅人教授の御推挙により、福岡大学筑紫病院外科講師を拝命致しました。私は熊本県八代市の出身で、平成11年に九州大学を卒業後、九州大学第一外科（現臨床・腫瘍外科）に入局し、外科医としての修練を積んでまいりました。福岡大学筑紫病院には平成31年4月より勤務させて頂いております。外科専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医、肝胆膵外科高度技能専門医、膵臓学会認定指導医、内視鏡外科学会技術認定を取得しており、肝胆膵領域の外科治療を中心に診療を行っております。この領域は疾患も術式も多様であり、その中で患者様に安全かつ低侵襲で治療効果の高い外科治療を提供できるように日々研鑽を積んでおります。大学院では膵腫瘍の病理の研究に携わり、現在でも膵癌をはじめとした膵疾患の臨床研究を行っております。膵癌は5年相対生存率が10%に満たない非常に予後不良な癌腫ですが、この膵癌の治療成績を向上させるため、診療・研究に専心しております。若輩者では御座いますが、御指導・御鞭撻の程、宜しく御願い申し上げます。



西新病院 総合・健診
講師

河野 靖

令和3年4月より福岡大学西新病院総合健診科講師を拝命致しました。私は平成14年に兵庫医科大学を卒業した後に、大阪市立大学第一内科に入局致しました。同付属病院で研修期間を終了し心臓超音波検査を研究課題に同医局大学院で臨床症例を多く学びました。大学院卒業後は同医局の関連病院で一般循環器科医としての臨床経験を積み平成28年に妻の出身地である福岡に転居してまいりました。来福後2年が経過した際に小生の父の体調不良のため、一時的に単身で帰阪することとなりました。その際に循環器内科 三浦 伸一郎教授のご厚意で福岡大学心臓血管内科学医局に入局する事となりました。幸い父の体調も良くなり今回、福岡の家族のもとに戻る事ができ三浦教授のご尽力により本年4月より現職となる事ができました。福岡での小生の居場所

を設けて頂いただきました三浦教授に感謝を申し上げたく存じます。今後は心臓超音波検査や循環器・総合内科診療にまい進することで少しでも現医局や西新病院、福岡大学に貢献出来たらと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



西新病院 循環器
講師

則松 賢次

令和3年4月より三浦伸一郎教授のご推挙により、福岡大学西新病院循環器内科講師を拝命いたしました。私は平成20年に福岡大学を卒業し、初期研修修了後に福岡大学医学部心臓・血管内科学に入局しました。福岡大学病院では臨床のみならず、研究に携わる機会も与えていただき、冠動脈疾患に関する臨床研究で学位を取得することが出来ました。平成27年以降は済生会福岡総合病院、出水総合医療センター、白十字病院での部外研修で臨床経験を積み、現在は福岡大学西新病院で心臓カテーテルインターベンションを中心に循環器診療を行っております。今まで医局、関連病院の諸先輩方にご指導いただいた経験や知識を元に、診療に関わらせていただき循環器疾患患者さんの予後改善、QOL向上に励んでいく所存です。若輩者ですが今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



西新病院 循環器
講師

森井 誠士

令和3年4月付けで三浦伸一郎教授のご推挙により、福岡大学西新病院の講師を拝命いたしました、森井誠士（もりいじょうじ）と申します。私は熊本地震で被害が大きかった地域の熊本県嘉島町（実家の周辺も地震の直後は家が数件倒壊していました）というところの出身ですが、中学より佐賀県の弘学館中学に進学し、高校まで寮生活を送っていました。2003年に福岡大学医学部を卒業、福岡大学病院臨床研修を経て2005年に第二内科（現心臓血管内科学）に入局、2006年より九州医療センター循環器内科や救急部で勤務し、2009年より福岡大学医学研究科先端医療科学系大学院に進学しました。朔啓二郎先生（現福岡大学学長）や三浦伸一郎先生（現心臓血管内科学 主任教授）のご指導の下、高血圧と動脈硬化関連の研究を行い2013年に学位を取得しました。大学院卒業までは心臓カテーテル検査（冠血管形成術）を中心に診療を行っていましたが、卒業後は現在に至るまで不整脈（電気生理学やカテーテルアブレーション）を中心に診療を行っております。心房細動患者さんは年々増加傾向であり、現在100万人を超すものと推定されています。しかし福岡大学西新病院はいままで不整脈専門医が常勤でおらず、心房細動等に対するカテーテルアブレーションがあまり施行されていませんでした。今後は不整脈専門医として西新地区やその周辺地域の不整脈診療（カテーテルアブレーション等）で貢献できるように全力で努力してまいります。未熟ではありますが、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

医師国家試験 結果報告

第115回医師国家試験（令和3年2月6～7日実施）に118人が受験し、104人（新卒95人・既卒9人）が合格しました。合格率は88.1%、新卒のみの合格率は91.3%でした。

看護師・保健師 国家試験結果報告

第110回看護師国家試験（令和3年2月14日実施）に95人が受験し、94人（新卒）が合格しました（合格率98.9%）。また18人（新卒）が第107回保健師国家試験（令和3年2月12日実施）を受験し、18人全員合格しています（合格率100%）。

教室だより
Letter from a classroom



内分泌・糖尿病内科学

内分泌・糖尿病内科学講座は初代教授である柳瀬敏彦先生のもと、2009年に開講し、2019年から川浪が2代目の教授として着任し現在に至っております。全国的にみて糖尿病あるいは内分泌疾患のいずれかのカラーが強い施設が多い中、糖尿病・代謝・内分泌領域をバランスよく診療、研究する体制が実現できたのは、柳瀬先生の理念があったからに他ならず、この伝統を私も守り抜きたいと考えています。当講座は医局員の平均年齢が若く、出身大学や、研修を受けてきた環境、社会的背景が様々です。ダイバーシティを強く感じながら日々を過ごしております。

卒前教育では学生を放置しないことを心がけており、カンファレンスや回診でのディスカッションを欠かさないようにしています。また、オンライン授業の拡充に対応し、他大学と海外一流誌の合同抄読会を課しております。資料作成や発表を相互に行うことで、自分たちを客観視する機会になっているようです。英語原著論文の引用を義務付けたレポート作成指導を行い、EBMやそれを裏打ちする基礎医学の大切さに触れさせるよう心がけています。また卒後の進路選択についても、クリニカルクラークシップの学生と話し合う機会を毎回必ず設けており、自らの進むべき道を定めたらば何も恐れずに挑戦するよう促しています。卒後教育においては、最新の血糖測定デバイスを用いた診療を行うと共に、内分泌負荷試験を積極的に行っております。広く内科学の視点をもった専門医の育成に取り組んでおります。

糖尿病合併症や内分泌疾患の最終的な診断、治療には関連する診療科のご協力が欠かせませんが、当院では幸いなことに強固な連携が構築されており、関係する先生方のご尽力にこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。研究は中長期的および短期的目標を掲げ、糖尿病における新たな臓器連関の解明を目指したプロジェクトに着手しております。臓器連関の鍵を握るのはホルモンであり、内分泌学的観点から私の専門領域である糖尿病合併症の研究を展開していきたいと考え、研究を進めているところです。こちらにつきましても、基礎医学講座の先生方から多大なるご支援を頂戴しており、心より感謝申し上げます。

今後とも機動力を持って福岡大学医学部の発展に尽くしたいと考えております。ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



学位取得 次の方は、福岡大学より博士（医学）を授与されました。

課程修了による学位取得者 [令和3年3月16日付け]

- | | | | |
|----------------|---------------|-----------------|-----------------|
| ・温 麟太郎(生体制御系) | ・蒲池 祐紀(病態機能系) | ・永田 旭(先端医療科学系) | ・重本 英二(先端医療科学系) |
| ・松岡 泰祐(生体制御系) | ・小阪 英智(病態機能系) | ・出石 礼仁(先端医療科学系) | ・田代 浩平(先端医療科学系) |
| ・長谷川 梨乃(病態構造系) | ・松永 大樹(病態機能系) | ・今泉 朝樹(先端医療科学系) | ・中村 誠之(先端医療科学系) |
| ・池園 剛(病態構造系) | ・藤澤 貴子(社会医学系) | ・大津 友紀(先端医療科学系) | ・堀川 剛(先端医療科学系) |
| ・藤原 史明(病態構造系) | ・長谷川 進(社会医学系) | ・向坂 秀人(先端医療科学系) | ・山内 涼(先端医療科学系) |

論文提出による学位取得者 [令和3年3月16日付け]

- | | | | |
|----------------|---------------|---------------------------|----------------------------------|
| ・井形 文保(呼吸器内科学) | ・原田 一宏(眼科学) | ・肥田 浩亮(放射線科) | ・國本 英雄
(長野市民病院肝臓内科・
消化器内科) |
| ・高橋 理恵(眼科学) | ・合馬 慎二(脳神経内科) | ・工藤 忠睦
(筑紫病院内分泌・糖尿病内科) | |

教室だより
Letter from a classroom



整形外科学

昭和47年に開講し、現在、同門会会員は300名以上、関連病院は、北海道から沖縄まで全国に30施設以上ある、わが国でも有数の臨床実績を有する教室です。毎年、多くの教室員を受け入れており、2020年度は24名、2021年度は18名です。教室の最も大きな特徴は、個人の自主性を最大限尊重し、かつ、その能力を発揮することができるよう配慮をしていることです。

2020年は、大学病院では年間1,200件以上の手術を行い、スポーツを含めた整形外科の全分野を確実にカバーしています。さらに、関連病院をあわせた手術件数は年間32,000件以上(2020年)に上ります。

当科には、家訓ならぬ、科訓があり、三科訓として、常に意識付けを行っております。「思いやり」「正直たれ」「整形外科のプロたれ」です。

【福大整形外科のミッション】

大学病院である以上、臨床・教育・研究の全てをバランスよく行うことが求められています。私たちのモットーは、

- ① 臨床：患者さん中心の医療
- ② 教育：良質な臨床医・整形外科専門医の育成
- ③ 研究：臨床そして患者さんに還元できる研究を行うことです。

①患者さん中心の医療

医療の進歩と共に、整形外科分野においても様々な治療法の開発がすすめられてきました。現在は、色々な意味で多様化が尊重される時代です。治療においても、「患者さんに最も適した医療」を提供すべきです。多彩な、そして高

度な医療技術を持ち合わせ、患者さんと十分に相談したうえで、「最も適切な医療」を提供できるようにしています。

②良質な臨床医・整形外科専門医の育成

大学は教育に関する最高学府であることから、医学教育にも力を注いでいます。医療の原点は、「思いやり」です。患者さんのみならず、全スタッフに対する「思いやり」の気持ちなくしては、良い医療はおよそ成り立たません。

専門的知識の習得はもちろんですが、「思いやり」をもった良質な医師の育成に努めています。

③臨床そして患者さんに還元できる研究

大学は研究を行う場でもあります。大学院での研究あるいは留学を希望する場合、積極的に、そして可能な限り希望に沿い、国際的なリサーチマインドの涵養に努めています。「臨床に還元できる研究」、「患者さんに還元できる研究」をモットーに、日々研究にも力を注いでいます。



長い間ありがとうございました

令和3年3月1日～令和3年9月30日までに退職された方

- 大慈 弥 裕之 教授 (総合医学研究センター)
- 竹下 盛重 教授 (病理学)
- 田代 忠 教授 (総合医学研究センター)
- 仁位 隆信 教授 (博多駅クリニック)
- 塚原 ひとみ 教授 (看護学科)
- 秋田 定伯 教授 (形成外科・創傷再生学)
- 三角 佳生 准教授 (細胞生物学)
- 上原 明 准教授 (生理学)
- 石井 敦士 准教授 (小児科学)
- 白井 和之 准教授 (筑紫病院循環器内科)
- 東原 秀行 准教授 (筑紫病院放射線科)

- 二見 喜太郎 准教授 (筑紫病院臨床医学研究センター)
- 勝田 洋輔 准教授 (西新病院循環器内科)
- 山口 和記 講師 (皮膚科学)
- 森原 大輔 講師 (消化器内科)

以上、3月31日付け

- 小林 知弘 講師 (運動器先端医療開発講座)

以上、4月30日付け

- 野村 優子 准教授 (小児科)

- 沼田 朋大 講師 (生理学)

以上、9月30日付け